

健軍校区  
社協だより

第 39 号  
 (編集発行) 区  
 健軍校区協議会  
 社会福祉協議会  
 (印刷) 太  
 陽社

夏越し灯路まつりは、今から七年前東部十校区の自治会連絡協議会によって、立ち上げられました。熊本市が政令指定都市になる事を見すえ、この十校区がまつりを通して、東区の核となり共に栄えようと云う願いが込められていました。

しかし平成二十二年熊本市が政令指定都市になり、十校区のうち三校区が東区より抜けるこ



### 第六回夏越し灯路まつりに寄せて



健軍校区自治協議会

会長 村上徹郎

とになりました。この事により十校区の灯路まつりの夢は崩れてしまいました。折角続けてきた灯路まつりが

無くなることは、地元住民として忍びない気持ちがありました。自治会連合会が中心となり、まつりの存続について話し

合われました。健軍校区は、健軍神社、八丁馬場等歴史的文化財を有し、これを活かして健軍校区単独でもまつりを存続しようと気運が高まってきました。早速 自治協議会に協力をお願いしたところ快く受け止めて頂き、健軍校区のまつりとして、復活することになった次第です。



何とも心強く、頼もしい限りでした。又 健軍神社宮司様のお計らいで健軍神社夏越しまつり前夜祭と夏越し灯路まつりの共催事業としてスタートすることになりました。神社と住民のまつりが合体できて大変良かったと思います。

これまでのまつりと変わったことは、住民の参加を第一に取り上げたことです。その一つが三〇〇〇器の竹灯籠を、子どもたちの作品(ラミネート加工)に変えた事です。二四〇〇器の子ども達の作品が竹灯籠に取って代わりました。お陰で家族づれの見学者が増え、これまでよりも賑やかで立派であったと自我自賛しているところです。

パーやステージ、オブジェ、交通整理等も自治協議会の役員さんが甲斐甲斐しく活動して頂き、健軍校区の団結の力を見せてくれました。

最後になりましたがこの祭りを物心両面から支えて頂いた健軍神社を初め協賛企業の皆様衷心より感謝申し上げます。



# 健軍校区大運動会

## 優勝二連覇について

健軍校区二町内体協理事 松崎 龍一郎



十月七日の健軍小学校で行われた二年に一度の「健軍校区大運動会」において、我が健軍校区「二町内」が、大会優勝・二連覇を成し遂げました。

前回優勝は、四十年ぶりでした。そして今回も優勝ができた二連覇の要因は、大きく三つと考えています。



ヨーイドン



入るかな？

三つめは、これも前回からですが、応援合戦に参加する様になりました。選手以外の方、一人でも多くの町内の方に、この運動会に参加してもらいたい為と、町内が一つに盛り上がると言う事での参加です。

いと打ち合わせを行いました。二つめは、その打合せと話し合いを基に、大会の一ヶ月前から毎週土・日曜の朝七時から、合同で練習会を行いました。三つめは、これも前回からですが、応援合戦に参加する様になりました。選手以外の方、一人でも多くの町内の方に、この運動会に参加してもらいたい為と、町内が一つに盛り上がると言う事での参加です。



気をつけて！

特に今年、二町内オリジナルのキャラクター「さわモン」を起用して、みんなで「クマモン」体操を踊りました。その際に、サロンの方々が紅白の両端にフリフリの付いたバトンを作って頂き、それをきっかけに、子ども会の女の子達も自分たちでもメイクを作って積極的に参加する様になりました。その応援合戦の参加が午後からの競技において、前回も今回もダントツ一位の成績が出て「午後戦の後、強い二町内になりまして。最後に、我が二町内は「親・子・孫」三世代が仲良く

と言うのがモットーです。選手宣誓を務めて頂いた、浦上芳之さん「親・子・孫」の三世代の皆さんが、宣誓された「健軍校区の六つの徳目」を実践してきた結果であり、これからも「六つの徳目」を心の礎として実践していけば、我が二町内は色々な行事を通して、「親・子・孫」三世代が、仲良く暮らせる安心・安全な健軍校区の「まちづくり」に貢献できると考えています。



**新じいお地藏さん**

健軍三町内

内藤 洋子

文政三年（一八二〇年）江戸幕府第十一代將軍（徳川家斉）の頃、この地の辻に祀られていたお地藏さんは風化によりお顔がわからないほど壊れていました。

この度、健軍校区三町内の田端組と窪組の総意により新しいお地藏さんをお祀りすることになりました。

平成二十四年八月十九日敬意をもってお迎えしました。

毎年十月二十四日は地藏祭です。その年の組内頭が祭りを仕切ります。お地藏さんのまわり

第十三回 ちびっこまちづくり

**相撲大会**



**観覧表**

平成24年10月20日(土) 9:00開会  
健軍神社境内

を洗い清め新しい前だれを掛け、お花と果物や菓子をお供え、お寺様に読経をお願いするのです。夜になると近くの各家では、お煮しめと山盛りにしたご飯などを供え感謝の心をつたえます。

右手に錫杖（しゃくじょう）左手に宝珠を持つお地藏さんは、無限の力で子どもを助け、慈悲の心で困った人に救いの手を差し伸べることがあると語り継がれています。



## 子育てサークルめだかクラブ・ 湖東中学校生徒との交流について

熊本市東区役所保健こども課 保健師 榎田りか

平成二十四年十月五日に、子育て支援ネットワーク主催で、健康校区の子育てサークルめだかクラブの親子と、湖東中学校の一年生との交流会を行いました。

子育て支援ネットワークとは、「安心して子育てができるまちづくり・こどもたちがすこやかに育つまちづくり」を目標に、健康校区で年に三回行われている会議で、参加機関は社会福祉協議会・民生児童委員・子どもを守る会・健康保育園・せきれい保育園・湖東幼稚園・湖東第二幼稚園・健康小学校・湖東中学校・マリスト高校・えんじえるスマイル（発達障がい児の親の会）・東区役所保健子ども課健康担当保健師です。

会議の中で、地域の乳幼児と中学生の交流を企画し、昨年はマリスト高校とめだかクラブの交流を行い、今年度は湖東中学の中学生とめだかクラブとの交流会を行いました。今回は湖東中学校とめだかクラブとの交流

会についてお伝えしようと思います。

交流会は、中学生と親子と民生児童委員さんと子育てネットワークの参加者でグループを作り一緒に遊びながら交流を行いました。その中で妊娠ジャケットの着用・赤ちゃん人形で抱き方の体験を中学生にしてもらいましたが、はじめは緊張がありました。時間の経過とともに笑顔が見られるようになりました。

お母さんたちからは「自分自身が中学生の時にこのような体験ができていたらよかった。命の大切さが重く感じられた時間だった。」「お兄ちゃん・おねえちゃんが一生懸命遊ぼうとしていて微笑ましかったです。年の離れたこともと触れ合う機会がないので双方にすこくよかった」などの感想があり、中学生からは、「赤ちゃんと同じ気持ちで接することができれば、赤ちゃんと間にうまく溶け込むことができるし、赤ちゃんの気

持ちも何となくわかるような気がした。」「僕たちを育ててくれた親にも改めて感謝しました。」「赤ちゃんは泣き声でお母さん呼びます。私には何をすればいいかわからないけどそれを一瞬で判断するお母さんは本当にすごいとおもいました。ミルクをあげたり寝かせたりすることは当たり前に見えるけど、どれほど大変なことかわかった。」「妊娠している人・子ども連れの人がいれば場合は電車やバスの席をゆずったり子育てのサポートができるようになりたい。」「などの感想がありました。

今回のふれあい交流会は、命のつながりを感じられるものでした。自分より小さい子どもに寄り添い気持ちを通い合わせることで、親として自分の子供の将来像を想うことなど、それぞれのいろいろな思いが重なる時間だったと思います。これからも、地域の交流としてつないでいきたいと強く思いました。



-----



### 我が町の状況

(1) 概 要 平成24年11月1日現在

項 目	数 値
人 口	12,541 人
世 帯 数	5,728 世帯
平均世帯人員	2.19 人
出 生 数	135 人
児 童 数	716 人
高 齢 者 数 (65才以上)	2,417 人
高 齢 化 率	19.28 %
15才以下人口	1,780 人
15才以下比率	14.19 %



2 町内



1 町内

# 敬老会



6 町内



5 町内

ご芳志有難う  
ございました

平成二十四年六月以降、次の方から健軍校区社会福祉協議会に対し、多額の香典返しのご寄付をいただきました。浄財は地域の福祉事業推進の為、有効に活用させていただきます。

ここに紙面をお借りいたしまして厚くお礼を申し上げます。



◇ 江藤 和幸 様

健軍一丁目十四ー十二

◇ 中村 芳興 様

健軍本町七ー九

◇ 光永 弘子 様

健軍四丁目十一

◇ 平野 かよ子 様

健軍本町十二ー二十八

編集後記

朝夕の冷え込みがきびしくなるとともに、今年も年の瀬を迎えました。世界全体が先の見えない不安感に満ちていることもあって、明るい話題を求め続けた一年だったと言っても過言ではないでしょう。

「成功」とは目の前の目標に対して良い結果が出ること、「成長」とは良くない結果も受け入れて、それでも未来に向かって果敢に挑戦していくこと」という言葉を耳にしたことがあります。

取り組んだすべてのことがうまくいくに越したことはありません。しかし、混沌とした世の中だからこそ、「成功」を求めながらも、常に「成長」することを忘れない人や社会でありたいと願うものです。(細野)